

くにみ春のフードフェスタ」



ブースは、54店舗、約200種類の食べ物であふれ、会場はおいしいにおいでいっぱいとなり、開店を待ちきれない人たちであふれました。

また、商工会青年部のブースでは、国見バーガー第3弾「防塁ドッグ」がデビュー。これは阿津賀志山防塁にちなんでホットドッグで、コッパンにごま味噌風味の特製ソーセージをはさんだものです。

特設ステージでは、みちのくボンガーズ「パチッコリン」の軽快な司会で、町体育協会の3B体操・健康体操、春日神社太々神楽の奉納、よさこい踊りなどが繰り広げられました。恒例となった、商工会青年部企画の「国見バーガー早食い選手権」も行われ、大人の部、子どもの部など、雨を吹き飛ばす熱い戦いが繰り広げられ、多くの観客から歓声が上がりました。

閉会式は、会場の全員で、元気よく「フードフェスタ！次回も食べ尽くしちゃってちょーだい！」と声をそろえ、締めくくりました。

あいにくの雨模様の1日でしたが、町内外から大勢の人が来場し、「おいしい」「たのしい」の声に満ちた1日となりました。

3月1日、藤田商店街特設ステージで「奥州街道ど真ん中！くにみ春のフードフェスタ」が開催されました。

開会式では、実行委員会石塚勝美委員長、共催者を代表して太田久雄町長があいさつし、八島博正議長をはじめとした来賓祝辞の後、石塚委員長の開会宣言でフードフェスタがスタートしました。

屋台・キッチンカー



①子どもの部国見バーガー早食い。一点を見つめて、手に持ったバーガーと格闘中②食べたらこんなに大きくなりました。③桜の聖母短期大学学生による、食育④食の祭典。食べてる時が幸せ⑤楽人のまなざし⑥親子でご来場ありがとうございました⑦始まる前の楽人の微笑み⑧雨の中多くの人出



自分の言葉でしっかりと町について発表します

2月28日、みらいホール国見で第19回福島大学地域創造支援センター地域フォーラムが、青年農業者、商工会青年部、子育て中のママ、一般町民の方約100人が参加し行われました。

午前中は「こうだったら良いのにな。くにみ」について4グループで、話し合いが行われました。各テ

ブルには、いろいろな方が入ることで様々な意見がだされ、活発なグループワークとなりました。

午後からは、福島大学岩崎由美子教授による基調講演があり、岩崎教授が国見町に学生と一緒に調査し、町について感じたこと、発見したことについて話をされました。町民にとってはごく当たり前の風景や物でも、町外の方から見た国見には「宝」がごろごろ。同じ見方ではなく、いろいろな角度から町を見渡すのも大事であることを話されました。ワークショップの発表では、各グループがそれぞれ自分の言葉で、しっかりと自分の考えを述べていました。若い人が、町のことを本気で考え、子どものためにがんばっている姿は「キラキラ」そのものでした。

こうだったら良いのにな。くにみ 第19回福島大学地域創造支援センター 地域フォーラム 国見町地域フォーラム



木目は宝物、こんな気持ち忘れていませんか

※木育とは…幼児から高齢者までを対象とした、生涯にわたる幅広い活動です。

- 例として
- ・子どもたちが木と触れあう活動
 - ・木を使った遊びやものづくりに親子で挑戦
 - ・大人が自分のために趣味で行うものづくり
 - ・森林での間伐体験と間伐材の利用についての学習…

2月24日、観月台文化センターで東京おもちゃ美術館長・日本グッド・トイ委員長理事長の多田千尋さんを迎え、職員・林業関係者を対象に※木育講演会が行われました。

講演会では、「木」を真ん中に置いた子育て・子育て環境を整備し、子どもから高齢者までの全ての人が、木の温もりを感じながら、楽しく豊かに暮らしてほしい。そのために

は、生まれた赤ちゃんに地産地消の木材の木製玩具を誕生祝い品としてプレゼントし、最期は国産の棺桶で迎えるウッドエンド。初めから最期までを「木」の温もりで…。暮らしの中に「木」を取り入れていく講演でした。また、子どもにとつて「杉の木目」は宝物に見える。大人は気が付かない。夢のある話の続きは、また近いうちに。

「赤ちゃんから始める木の暮らし。ウッド・スタートで地域を変える」

～木育講演会～